



CDR 検索の設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。CAR 管理者だけが CDR 検索を使用できます。

この章は次の内容で構成されています。

- ユーザの内線による CDR の検索の設定 (P.8-2)
- ゲートウェイによる CDR の検索の設定 (P.8-4)
- コール終了原因による CDR の検索の設定 (P.8-6)
- コール終了の詳細の表示 (P.8-7)
- コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 (P.8-8)
- 迷惑呼による CDR の検索の設定 (P.8-10)
- 関連トピック (P.8-11)

開始する前に

Cisco CallManager のサービス パラメータ CDR Enabled Flag と Call Diagnostics Enabled を true (有効) に設定して、システムが CDR データと CMR データを生成できるようにしてください。システムのデフォルトでは、これらのサービス パラメータは無効になっています。これらのサービス パラメータの詳細については、P.2-3 の「CDR のサービス パラメータの設定」を参照してください。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。レポートの生成材料となる CDR データが、最新のものであることを確認してください。デフォルトでは、1 日 24 時間、週 7 日持続的に CDR データをロードします。ただし、ロードする時刻、間隔、期間を必要に応じて設定できます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

CAR のメイン ウィンドウにログインした後で、Cisco Unified CallManager も起動していると、次のようなメッセージが表示されることがあります。「Warning: In some servers in this cluster the CDR Enabled Flag is false and so CDR entries may not be generated for all the calls made in this cluster (警告 : このクラスター内の一部のサーバで CDR Enabled Flag が false のため、このクラスターで作成されたすべてのコールに CDR エントリが生成されていない可能性があります)」一部のクラスターには複数のノードが存在し、そのノードの中には Cisco Unified CallManager サービスを実行していないものがあります。この警告は、Cisco Unified CallManager サービスのアクティブ化のステータスにかかわらず、クラスター内のすべてのノードをチェックします。Cisco Unified CallManager サービスのすべての登録者について CDR Enabled Flag パラメータの設定を手動でチェックしたら、この警告を無視してください。

ユーザの内線による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがユーザの内線による CDR の検索機能を使用します。

この項では、ユーザまたは内線を条件として CDR データの詳細を表示する方法について説明します。ユーザまたは電話番号（発信側、元の着呼側、最終着呼側）を条件として CDR データを検索すると、検索条件に一致した最後の 100 個のレコードについてコールの詳細を分析できます。100 を超えるレコードが戻された場合は、システムが結果を切り捨てます。指定した期間と回数を条件としてコールを検索でき、これにより、特定の回数にわたって診断または情報参照の目的で送受信されたコールを追跡するのに役立ちます。転送、モビリティ、サイレント モニタリングと録音、および会議など、関連するすべてのコールのレコードが、1 つの論理グループとしてまとめて表示されます。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By User/Extension] を選択します。

[CDR Search by User Extension] ウィンドウが表示されます。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が 0～9 で構成される n 桁の数字を表し、「X」は 0～9 の範囲の 1 桁の数字を表します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- 内線を条件として CDR を検索するには、内線番号を [Extension] フィールドに入力し、[Add Extension] ボタンをクリックします。
- ユーザを条件として CDR を検索するには、[Search Extension(s) based on User(s)] リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを [First Name] フィールドや [Last Name] のフィールドの一方または両方に入力して、[Search] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある [Select] リンクをクリックします。[Close] ボタンをクリックします。

内線が [Selected Extension(s)] ボックスに表示されます。



(注) 項目をレポート条件ボックスから削除するには、[Remove Extension(s)] ボタンをクリックします。[Remove All Extensions] ボタンをクリックすると、レポート条件ボックスからすべての項目を削除できます。

ステップ 3 指定したユーザまたは内線の CDR データを表示する期間の日付と時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時) を使用します。

ステップ 4 [OK] ボタンをクリックします。

[CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

ステップ 5 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 6 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16](#) の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

[P.8-11](#) の「関連トピック」を参照してください。

ゲートウェイによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがゲートウェイによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、特定のゲートウェイ タイプを条件として、または選択したルート パターンを使用するゲートウェイを条件として CDR データを検索する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By Gateway] を選択します。

[CDR Search by Gateway] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、[Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、[Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。



(注) ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

ステップ 3 リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

ステップ 4 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。15 を超える数のゲートウェイを選択すると、「Select 15 or fewer gateways to generate new report.」（新規レポートの生成では、選択するゲートウェイの数を 15 以下にしてください。）というメッセージを受信します。

ステップ 5 選択されたゲートウェイを [Selected Gateways] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したゲートウェイが、[Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 6 CDR データを検索する期間の日付および時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、UTC（世界標準時）を使用します。

ステップ 7 [OK] ボタンをクリックします。

CDR-CMR Results ウィンドウが表示されます。[ステップ 6](#) で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

ステップ 8 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 9 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16](#) の「[レポートのメール送信](#)」の手順に従います。

追加情報

[P.8-11](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

コール終了原因による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコール終了原因による CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの終了原因に関する情報を検索する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By Cause for Call Termination] を選択します。

[Cause for Call Termination] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 コールの終了原因を検索するには、コールの終了原因のリストで、原因を強調表示します。



ヒント

キーボードの Ctrl キーを押しながら原因をクリックしていくと、複数の原因を選択できます。Shift キーを押しながらすべての原因をクリックしていったら、リスト内のすべての原因を選択することもできます。

ステップ 3 必要な原因が強調表示された状態で、[Selected Call Termination Causes] ボックスの上にある下矢印をクリックします。

選択した原因が [Selected Call Termination Causes] リスト ボックスに表示されます。

ステップ 4 CDR データを検索する期間の日付および時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、UTC（世界標準時）を使用します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[Call Termination Details] ウィンドウに、レポートが生成されたときのレポート条件とともに、所定の期間に発信されたコールの合計数、および選択した原因コードごとのコール レッグの数とコール レッグの割合 (%) が表示されます。ステップ 4 で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

ステップ 6 CDR を表示するには、P.8-7 の「[コール終了の詳細の表示](#)」を参照してください。

追加情報

P.8-11 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

コール終了の詳細の表示

この項では、コール終了の詳細を表示する方法について説明します。

開始する前に

P.8-6 の「[コール終了原因による CDR の検索の設定](#)」の手順に従って、[Call Termination Details] ウィンドウを表示します。

手順

-
- ステップ 1** [Select CDRs] フィールドで、表示する個々の CDR の横にあるチェックボックスをオンにします。リストに含まれているすべての CDR を表示する場合は、[Select CDRs] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** 表示する CDR の選択が終了したら、[View CDRs] をクリックします。
- [CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。
- メディア情報および CDR-CMR ダンプ レコードを表示するには、[Others] リンクと [View] リンクをクリックします。CDR 検索結果レポートの見方については、P.10-22 の「[CDR の検索の結果について](#)」を参照してください。
- ステップ 3** ウィンドウに表示される情報を出力するには、ブラウザの [編集] ボタンをクリックします。[すべて選択] ボタンをクリックして、レポートの出力対象となるセクションを強調表示します。[印刷] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** レポートを電子メールで送信するには、[Send Report] をクリックし、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明している手順に従います。
-

追加情報

P.8-11 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

コールの優先レベルによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコールの優先レベルによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの優先順位を条件としてコールを検索する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By Call Precedence Level] を選択します。

[CDR Search by Precedence Levels] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Select Precedence Levels] で、表 8-1 の説明に従って、検索するコール優先レベルのチェックボックスをオンにします。

表 8-1 コールの優先レベル

音声品質	説明
Flash Override	MLPP コールにおける最高の優先順位設定。
Flash	MLPP コールにおける上から 2 番目の優先順位設定。
Immediate	MLPP コールにおける上から 3 番目の優先順位設定。
Priority	MLPP コールにおける上から 4 番目の優先順位設定。
Routine	MLPP コールにおける最低の優先順位設定。



(注) すべての優先レベルのチェックボックスをオンにするには、[Select All] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[Clear All] をクリックします。

ステップ 3 [From Date] フィールドで、CDR 検索範囲の開始点となる日時を選択します。時刻の範囲を設定するときは、UTC（世界標準時）を使用します。

ステップ 4 [To Date] フィールドで、CDR 検索範囲の終了点となる日時を選択します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[Call Precedence Details] ウィンドウが表示され、コールの優先レベルと値、コール レッグの数、およびコール レッグの割合 (%) が示されます。

ステップ 6 [Select CDRs] カラムで、確認する CDR のチェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [View CDRs] をクリックします。

[CDR-CMR Search by Precedence Levels - CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。ステップ 3 およびステップ 4 で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

ステップ 8 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 9 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[Send Report] をクリックし、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

P.8-11 の「関連トピック」を参照してください。

迷惑呼による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけが迷惑呼による CDR の検索機能を使用します。

この項では、迷惑呼を検索する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [Malicious Calls] を選択します。

[CDR Search for Malicious calls] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Select Extension(s)] ボックスで、[Extension] フィールドに内線を入力し、[Add Extension] をクリックします。
ユーザの内線が [Selected Extension(s)] ボックスに表示されます。
- ユーザの内線を検索するには、[Search Extension(s) based on User(s)] リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを [First Name] フィールドや [Last Name] のフィールドの一方または両方に入力して、[Search] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある [Select] リンクをクリックします。ユーザに関連付けられている内線番号が、[Selected Extension(s)] ボックスに表示されます。[Close] ボタンをクリックします。



(注) 内線を削除するには、削除する内線を選択し、[Remove Extension(s)] をクリックします。すべての内線を削除するには、[Remove All Extensions] をクリックします。

ステップ 3 CDR データを検索する期間の日付および時刻の範囲を選択します。時刻の範囲を設定するときは、Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時) を使用します。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

[CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。**ステップ 3** で設定した日付と時刻の範囲に一致した最古のレコード 100 件のみ表示されます。

ステップ 5 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 6 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16](#) の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

[P.8-11](#) の「関連トピック」を参照してください。

関連トピック

- [CDR の検索の結果について \(P.10-22\)](#)
- [メディア情報 \(P.10-23\)](#)
- [CDR および CMR のダンプ テーブル \(P.10-23\)](#)
- [レポートのメール送信 \(P.5-16\)](#)
- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \(P.8-2\)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \(P.8-4\)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \(P.8-6\)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \(P.8-7\)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \(P.8-8\)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \(P.8-10\)](#)

■ 関連トピック